

第3回 加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和4年10月25日(火) 9時00分～12時00分

場 所 南部公民館 農事研修室

委 員	委 員 長	松岡 広路
	副委員長	谷勝 公代
	委 員	岡本 教穂
	委 員	藤本 文俊
	委 員	櫻井 臣義
	委 員	国田 徹也
	委 員	植田 美紀子
	委 員	菅野 将志
	委 員	達可 有呉
	委 員	泉 育代
	委 員	藤田 亮
	委 員	大藤 由美
	委 員	前田 恵美

1名欠席

職 員	教育部長	千石 剛
	生涯学習課長	北島 悦乃
	生涯学習課課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課	近藤 優佳
	教育長欠席	

1. 開会

2. あいさつ

(教育部長)

本日は、第3回加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会会議にご出席くださり、ありがとうございます。

これからどんどん核論に入っていくことになっていきますが、委員長の進行のイメージを共有しながら、この会が有意義なものになるようにと思っております。

検討委員会での結論は、報告書という形でまとめ上げたいと思っております。ですので、それに向かっての協議が行われているとご認識いただければ幸いです。報告書は、年度内には仕上げたいと考えておりますので、少しタイトなスケジュールになりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3. イントロ

(委員長)

今回は、公民館活動の現状を踏まえながら、さらに活性化するための方策を考えることがねらいになりますが、まずは、前回の内容とこれからの委員会の流れの確認を行いたいと思います。

前は、グループに分かれて、目指すべき公民館像について、委員の方がそれぞれ頭に描いていることを出し合って、それらを一つの輪郭を持ったものにできるようにということで話し合っていました。また、理想の公民館のキャッチコピーを、各グループで出てきたアイデアをまとめる形で作っていただきました。

皆さんに作成していただいた模造紙を見ながら、内容を少し振り返ってみたいと思います。まず、第1グループです。このグループは、コーヒーが飲める、くつろぎある、井戸端会議ができる、音楽が流れている、職員に相談ができるなど、居心地のいい雰囲気がほしいということが挙がっていましたね。

多様な年代の人が集まって気楽に利用できるような公民館ということで、バリアフリーというキーワードもありました。また、サテライトというキーワードもあって、いわゆる一般行政と住民が繋がることができるサテライト機能も欲しいということでした。それから、健康志向でフィットネスがあるというアイデアも出ていましたね。

(委員 A)

その意見は、男性の方が足を向けてくれるのではという観点から出されました。

(委員長)

なるほど。第1グループは、「ここにもある居場所公民館」「居場所をプラス」といってキャッチフレーズをつけていましたね。公民館が、学校や職場、家以外の第3の居場所という感覚が生まれてくる場所であればいいということが提案されたということでした。

次は、第2グループを見ていきたいと思います。まず、気軽に立ち寄れる公民館、誰でも繋がる公民館ということで「いつでも集える、誰でも集える公民館」というキャッチフレーズをつけていましたね。

また、歩いて行ける公民館ということも挙がっています。実は、一般的には、公民館は中学校区と小学校区の間範囲の一つあればいいと言われていました。ところが、高齢化が進んだ今、この範囲の一つの公民館でいいのかということが、密かに問い直されています。密かにという意味は、国でもそれを作ろうとは決まっていらないのですし、新しい公民館を作る財力はどの自治体にもないということです。

そうすると、今の公民館はそのまま使い、公民館ではない施設も公民館の役割を果たすことが期待されるのです。そのことで、今、学校が地域のプラットフォームになり、公民館的な機能も多少持ってもらいながら、ネットワークを作ることが言われています。そうすると、学校の先生方も公民館活動を理解していかなければいけないし、地域の方たちも学

校の仕組みについてもっと理解をしておかないといけなくなります。

また、社会資源と繋がる公民館ということも出ていますね。これについては、どういう社会資源と繋がるイメージなのか聞いてみたいのですが、いかがでしょうか。

(委員 H)

企業や公など地域にある特色を持った機関と繋がるイメージです。

(委員長)

地域の人たちが社会資源と繋がって、社会資源を動かす、あるいは利用する主体になることができるのは、社会教育の強みですよ。

実は、社会資源と繋がるということは、昔からその必要性が言われ続けてきたのです。歴史的には、公民館は今のよう形ではなくて、1946年に構想が出されて出来た当初は、社会福祉の機能、それから、地域の産業を興していく拠点、これらが入っていました。公民館は、地域の様々な社会サービスの拠点であるという言い方をされていたのです。

ところが、戦後、経済成長が進み、いろいろな形で施設が分かれていくと、公民館は一体何をするとところなのかということが、1970年から80年代頃頃から問われるようになりました。

その時代は、生活や仕事の中で、人と人との繋がりが極めて強い時代だったのです。ところが、今はそういった繋がりが薄くなってきて、いろいろなサービスを総合化させる場所がなくなり、これは一体どこが担うべきかが大きな課題になっております。

他に目指すべき公民館像として出た意見は、地域を学べる公民館、学びたいことを学べる公民館、同級生と一緒に学べる公民館などがあります。

同級生と一緒に学べる公民館については、意図を少し教えていただきたいです。

(委員 C)

歳を重ねると、なかなか同級生と出会う場がないので、そういう場が提供できたらいいなと思って意見を出しました。

(委員長)

そうですね。地元を離れていった人たちが、もう1回戻って何か交流できるとか、そういうことも可能性として感じますね。

次は、第3グループです。このグループでパッと目につくところは+αというキーワードです。特性を見てみると、レストランやカフェがある、宿泊ができる、市役所の支所として行政サービスが受けられる、ということです。

そして、スポンサーを獲得するという意見も出ていますね。お金について、行政側はすごく配慮をしていますが、それでも住民としては、財源をもっと回してほしいということがあると思うのです。現実的にこの辺りの公平さは、結構難しいことだなと思います。

ここ南部公民館はスポンサー取っているのですか。

(委員 F)

私が勤務していた頃は、公民館まつりの時に少し考えていたのですが、結局、難しいかなということになりました。

(委員長)

公民館は中立的なイメージがあるが故に、スポンサーを取り辛いという部分もありますよね。皆さん、公民館がイベントでスポンサーを取っているという話を聞いたことはありませんか。

(委員 I)

私が勤務をしたことがある善防公民館や北部公民館では、公民館まつりに地域の企業が共催をしてくださっています。

(委員長)

そうなのですね。東日本大震災の被災地支援の中で、公民館が被災して、立て直さなければいけないという時に、このスポンサー制を取り入れていたところがいくつかあります。それから、公民館だけでクラウドファンディングをしてそのお金で公民館の建て替えをしているところもあります。実はこれらのことも、考え方を変えれば非現実的ではないのですよね。

他に目指すべき公民館像としては、三世代が交流できる公民館ということが出ていますね。だけれど、交流した後の繋がりが課題だとも書かれています。これはどういうことでしょうか。

(委員 D)

三世代交流というのは、いろいろなイベントで行われていると思うのですが、その時だけで終わってしまって、交流が継続しているようなものは少ないと感じるという話でした。

(委員長)

そうですね。方法はいくつかあるかと思うのですが、三世代交流を単発で終わらせず、継続的に行うためには何が必要だと思いますか。

(委員 D)

1か月に1回でもいいから継続して続けていく教室のようなものがあればいいのではないかと思います。

(委員長)

計画的なものとイベント的なものの両方を用意しておいて、そこをつなげておくという工夫が必要ですね。最初から計画的なものを出された場合、重たく感じて参加できなくなる可能性がありますので、参加していく中で、継続的な要素が出てくるという形であるといいですね。

他に出ている意見で、学童保育、学習塾、子供食堂、保育園機能がありますが、これらを実現しようとする場合、事務局はかなり大変になります。このグループでは、事務局機能を高めていくことも課題として出たのでしょうか。

(委員 E)

これらを全て公民館の事務局が担うという発想ではなくて、公民館の建物を間貸ししながら、公民館や保育園などが、それぞれに事務局機能を持つのがいいのかなと考えています。

(委員長)

なるほど。事務局機能を分散しながら、一つ一つの活動ができて、尚且つそれらが連動していくような形にしたらいいのではないかということですね。

気になるのは、加西市の公民館を運営していく人たち、また、関連するグループの人たちは、新しいものを生み出そうとする意欲が高いのかということです。その点はどうか。

(委員 F)

正直、利用者が高齢化していることもあり、そこまでの元気がないというところがあります。ただ、事務局である公民館職員の働きかけによって、何かと協力してくださる方は多いかと思います。何もなかったら自発的にというのは難しいかもしれません。

(委員 H)

私自身、一番怖いのはマンネリ化だと思っていますので、それを避けるためにも、自分が勤務する公民館では、課題を皆で共有したうえで新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

～ふりかえりシートのフィードバック～

それから、この委員会が一体どこに向かっていくのか、また、報告書はどういうものになるのかということのを改めて皆さんと共有しておきたいと思います。

まず、3月末にこの委員会の意見をまとめた報告書、つまり答申を出します。そして、この報告書に対するパブリックコメントを集めます。それによって、報告書の内容を修正することはありませんが、これらをベースとして、行政がこれから何するのかという実施計画を作っていきます。

我々の答申は、ここにいるメンバーで作り上げて、関係する市民、あるいは関係部署の人たちに見ていただいて、いろいろなご意見いただきながら、行政が実施計画の中に盛り込んでいくための土台となるのです。

この報告書はすごく短期間で作り上げることになります。そのため、住民にヒアリングやアンケート調査を実施する時間はありません。そうすると、今、皆さんが持ち合わせている経験・情報・知識を持ち合わせて、加西市の公民館・オークタウン加西のあり方を一旦策定することになります。

報告書を作成するまでの道筋としては、今日までは、皆さんから個別のアイデアをいろいろな次元で出してもらいます。そして、次回以降は、何を提言するのかという提言に焦点を絞って、短・中・長期的な観点からそれぞれ意見を出していただきます。これらを基にして、

来年の2月頃を目途に、私と事務局で報告書をまとめます。そして、最後にこの素案に皆さんから修正を加えていただき、我々の答申をまとめるという考え方です。

ただ、短期的戦略については、教育行政が考えている方向と全く逆のものを出したとしても反映されにくいので、そういう意味では、加西市の行政、教育委員会がどういうことを考えているのかも大切になります。

それについては、「新しいもの」ということが一つのポイントになるのではないかと思います。例えば、STEAM ラボなども出来ますよね。このSTEAM ラボについて、まだご存じない方もいらっしゃるかと思いますので、簡単な説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

(委員 G)

一言で言うと、創造的な学びができる空間ということになります。

STEAM ラボというと、最先端の機器がある空間をイメージされるかと思いますが、実はそうではなくて、いろいろな学びができる空間というイメージなのです。

もちろん、その場には、コンピューターがあつてすぐにオンラインでつながれたり、360°カメラがあつて講座を録画したり、今までの公民館の枠に囚われない学びの空間が作られることになります。

(委員 B)

私は、社会教育委員です。社会教育委員会というのは、社会教育や生涯教育、公民館のことを検討している委員会なので、この公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会を支援できるようなことはないかと社会教育委員会で検討をしました。

そこで、中長期的な取り組みとして、公民館や社会教育の関係者で企画委員会を作るのはどうかという意見が出ました。最終的にはここで取り組みの内容を決めてもらうことになるのですが、ここで一つお伝えさせていただきます。

(委員長)

それはとてもいいアイデアですね。

短・中・長期的な戦略というところで、例えば、何か複合施設のようなものがほしいということは、長期的戦略として提案ができますね。それを短期的戦略として提案した場合、財源がないという話になりますから、短期的戦略として出せるもの、中・長期的戦略として出せるもの、そのあたりも整理しながら提言をまとめていきたいと思っています。

(委員 C)

短期、中期、長期という期間について、大体の目安を教えてくださいありがとうございます。

(委員長)

短期的取り組みは、すぐにでもできることと、もしくは2年程度先に使うお金として予算を要求できるもの、中期的取り組みは5年程度先、長期的取り組みは10年程度先に使うお金として予算要求できるものというイメージで考えていただければと思います。

世界的にはこういった戦略や目標は大体15年スパンで作られています。ですので、これ

も 2023 年から 15 年間程の取り組みを論じていくのが良いのではないかと考えています。

(委員 D)

実は、前回の会議後、目指すべき公民館像があまりに現実とかけ離れているような気がして少しモヤモヤしていました。もちろん、目指すべき公民館像を考えることはいいことなのですが、中・長期的な視点から考えたとしても、本当にそんなことができるのかというのが正直な気持ちとしてありました。

(委員長)

報告書は、現状、課題、目指すべき公民館像という章があり、具体的に提言をするという構造に分かれると考えています。

この構造を順番に作り上げていくという発想でもいいのですが、作っているうちに前の内容が変わってくるはずです。課題も変わってきたり、目指すべき公民館像も変わってきます。そういった理由で、いつも前回の内容から会議を始めるようにしています。

それから、この報告書がどう使われるかということについては、先ほどお話した実施計画の土台となることの他に、一般行政にアピールするための手段としても使いたいと考えています。つまり、教育行政だけでは済まない問題があれば、加西市全体として協力をしてもらいたいというアピールをするのですね。場合によっては財源の確保にまで繋がればいいのかと思っています。

ですから、住民の方に公民館のことを知ってもらうだけではなく、他行政の方や公民館にあまり関心を持っていない方たちにどうアピールするのかということも頭に入れておく必要があると考えています。

～グループワークの説明～

4. グループワーク

テーマ (1) 加西市の公民館の現状と課題の整理

テーマ (2) 次世代にプレゼントしたい公民館の整理

テーマ (3) 実現に向けての戦略づくり

5. 総合討議

次回に持ち越し

6. ふりかえり

～ふりかえりシートを記入～

7. 閉会